

平成22年度 イオル再生事業白老地域実施状況

(1) 空間形成事業

植栽事業

平成18年度、平成19年度に植栽した陣屋地区、ポロト自然休養林地区及びポロト地区の維持管理等を一般社団法人白老モシリが受託し実施。

各地区において、保育観察・定期巡視を実施し状況を把握するとともに、除草・草刈作業、鹿対策ネット、案内プレートの補修、木道防腐等を実施した。

陣屋地区においては、ガマ、フトイ等を収穫し、収穫物は町内の工芸サークルでの活用と、収穫物を使用した体験交流事業を実施した。

ポロト自然休養林地区については、森林管理署との協定に基づき「森づくりの体験学習」等への協力を依頼し、必要に応じて体験交流事業の講師等をお願いすることとしているが、今年度については下草刈りとエゾ鹿対策のみ実施した。



試験栽培

アイヌの人々が伝統的文化活動を行う際に必要となる自然素材を確保するため、森野地区での試験栽培を引き続き実施するとともに、ヨコスト地区で海浜植物の試験栽培を(財)アイヌ民族博物館が受託し、採取及び採捕の空間確保に取り組んだ。

また、穀物(アワ、ヒエ、キビ)、苗木、有用植物、海浜植物の保育、定期巡視等を行い、生育状況を記録するとともに、収穫物については、伝承者育成事業、体験交流事業に利活用するほか、穀物の一部を他地域での事業に活用いただいた。



空間整備(コタンの再生)

ポロト湖畔地区において、アイヌの人々の歴史や自然観に根ざした工芸技術等の伝承活動の場や自然と共生していたアイヌの人々の知恵を学習するため、イオル空間としてのコタンの再生等を引き続き実施。

チセ周辺の自然環境整備として、コタン再生の趣旨と来場者の安全面に配慮しつつ、園路の整備、周辺の緑化を施工した。

また、22年度新たに復元するチセ1棟については、12月に作業を開始し、t現在復元中で、3月末に完成する。



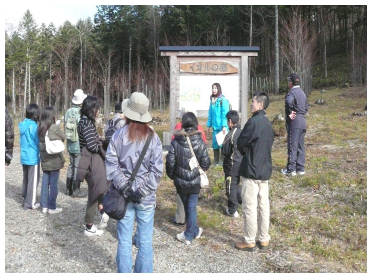
(2) 空間活用事業

体験交流事業

地元関係機関による白老イオル体験交流事業推進協議会が主体となって、地域内の各種事業と連携を図りながら、体験交流指導者育成事業の受講者をリーダーとしたイオル空間を活用した各種体験交流事業を実施し、249名が参加した。

海、川のイオル体験事業は、伝統儀式、地引網体験、伝統漁法による鮭の捕獲体験、伝統料理食体験など各2回開催し、また、山のイオル体験交流事業では、ポロト自然休養林でアイヌの有用樹木の学習等を行い、また、ミニ体験事業として、「昔の暮らし模擬体験」及び「ゴザ編み体験」を実施した。

アイヌ文化の体験、体感交流事業では、教育現場でのアイヌ文化の理解・普及促進を図るため、教職員を対象に体験学習、研究者・学芸員による講義など3日間12講座を実施し、教育現場でのアイヌ文化の理解・普及促進を図った。



(3) 空間の管理運営

しらおいイオル事務所「チキサニ」運営事業

教育（学習）型イオル事業運営の拠点として、アイヌの人々が主体的に空間の管理運営を行うとともに、アイヌの人々や広く一般に対して、アイヌ民族や文化に関する学習機会や情報を提供する場として活用している。

また、平成20年度、平成21年度事業で建設したチセ等の適正な維持管理を実施するとともに、アイヌ民族や文化に関する学習機会や情報を提供する場として活用し、4月～2月までに1,934人の利用者があり、年々利用者が増加している。



管理運営事業

白老地域のイオル再生事業全体について、総合的に管理運営し、地域の実施計画のとりまとめや関係機関との連絡調整を行っている。

アイヌ施策推進室職員のほか、学芸員1名を配置し、各種事業の指導、協力など白老地域におけるイオル再生事業について総合的な調整を行っている。